

ボーナスの季節がやってきました

経済調査部 大塚 崇広

冬のボーナスは前年比+1.5%を予想

ボーナスの季節がやってきました。当研究所では、民間企業の2013年冬のボーナス支給額は前年比+1.5%（支給額：37万1千円）と予想しています。夏のボーナスは前年比+0.3%と微増にとどまりましたが、冬は伸び率が高まる見込みです（資料1）。昨年末以降の景気回復と円安による企業収益の大幅増加や、企業景況感の改善などがボーナス改善を明確化させるとみています。足元の賃金は全体としては未だ低迷の域を脱していませんが（資料2）、ボーナスの増加によって賃金には徐々に明るさがみえてくることでしょう。

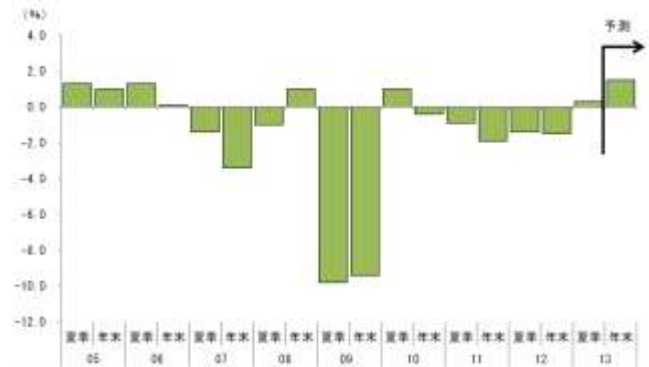
来年度のボーナスは？そして消費は？

来年度のボーナスはどうなるのでしょうか。ボーナスは企業業績との関連性が強いと言われますが、2013年度の企業収益は円安や堅調な内需を背景に大幅増加することが見込まれます。こうした2013年度企業収益の大幅増加が反映される形で、2014年度のボーナスも増加が期待できるでしょう。

足元で低迷している基本給も労働需給の逼迫等により改善に向かうことが見込まれます（資料3）。大企業の中には、ベアを含む賃金アップに言及するところもあり賃上げムードは以前より高まっています。2014年度の賃金は明るさが増してくるでしょう。

一方、懸念されるのは消費税率引き上げの影響です。2014年4月には5%から8%への消費税率引き上げが行われますが、これは実質賃金（賃金÷物価）の大きな低下圧力となります。雇用者数の増加や賃金の改善傾向が続くことから、個人消費については腰折れこそ避けられるとみていますが、増加ペースは緩やかなものに留まると予想されます。

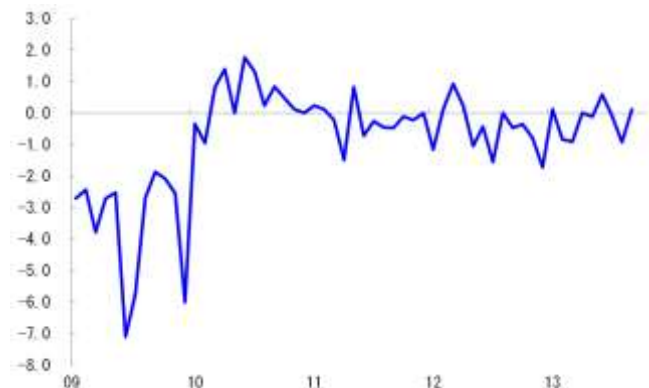
資料1 ボーナスの推移（前年比）



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

（注）予測は第一生命経済研究所。

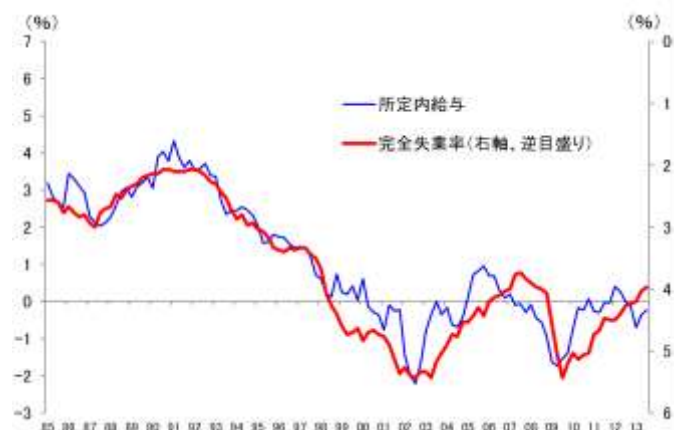
資料2 現金給与総額（一人当たり賃金）の推移



（出所）厚生労働省「毎月勤労統計」

（注）2013年9月速報までの値。

資料3 所定内給与（前年比）と失業率（季節調整値）



（出所）厚生労働省「労働力調査」、「毎月勤労統計」